

シンガポール動物園 (Mandai WILDLIFE GROUP)

～生物多様性の保全と観光・教育について～

報告者：島田 敬子

1 概要

- Mandai WILDLIFE GROUP は、動物の保護を目的とした Mandai NATURE、新しい分野で事業を発展させる Mandai X の 2 部門で構成される。
- 「人々と動物とが、共に繁栄する世界」を目標に、「人々に自然や動物を守る大切さを伝え、心に響くつながりや体験を創造する」というビジョンのもと、動物園と自然体験が楽しめる場所を提供している。
- ①レインフォレストワイルド、②シンガポール動物園、③バードパラダイス、④リバーワンダー、⑤ナイトサファリの 5 つのパークがあり、これらのパークを総括したものを Mandai Wildlife Reserve としている。
- 今回は、Mandai WILDLIFE GROUP が学生に対して行っているサステナビリティに関する取組についての説明を聞いた後、パークを視察した。

2 主な説明者

Sales & Experience Development

- Senior Experience Guide
- Deputy Vice President
- Senior Manager

3 主な説明内容

Mandai WILDLIFE GROUP (以下、「グループ」) には、Mandai NATURE と Mandai X の 2 つの部門があり、Mandai NATURE は完全非営利で、野生動物の保護・保全を行っている。Mandai X は、商業部門から少し切り離された Strategic な改革を担っている。

シンガポールは小さな国ではあるが、人間が住むエリアと野生動物が住むエリアを綺麗にすみ分けしており、グループの目標やビジョンにもそれを反映させている。グループでは、「人々と動物が、共に繁栄する世界」、どちらかが有利になるのではなく双方の利益になるような世界を目指している。

プロジェクトを進めるに当たっては、①「融合」もともとある自然と喧嘩し合わない建物や施設を作る、②「インクルージョン」誰が来ても楽しめるパークであること、③「サステナビリティ」の 3 つを大切にしている。

5つのパークを全て合わせて約2万匹の動物を飼育しており、そのうち25%がいわゆる絶滅危惧種と呼ばれる希少種となっている。国内外の様々な動物園協会とも協定を結び、絶滅危惧種の保護・保全に取り組んでおり、昨年はパーク内で約2千匹の赤ちゃんが誕生した。近々、東南アジアの動物園協会が1週間かけてカンファレンスを行う予定で、約26の国から500人近い方を招いて、連日ミーティングを行う予定である。現在は、東南アジアを中心に保全プロジェクトを進めており、まずは、近隣諸国の動物の保護・保全を先に取り組んでから、世界に目を向けていく予定である。

サステナビリティの一環として、バリューチェーン全体で2050年までに温室効果ガスの排出をネットゼロにすることを目指しており、SDGs 17項目のうち、特に8項目に力を入れている。

持続可能な運営としては、

- ①トラムの電気化、立体駐車場にソーラーパネルを設置、サステナブルな車両の推進。
- ②リサイクルした排水は園内の植木に散水。
- ③ミミズを使って食べ残しのえさを肥料化。人間の食べ残しを分解する機械の導入。剪定した木やオフィスで出たリサイクルした再生紙などを動物のベッドに利用。
- ④責任ある購買として、園内で提供する食事は全てサステナブルな食材のみを使用。

などに取り組んでいる。

生物多様性と環境への配慮として、人間が使う部分と野生動物たちが生息する部分の真ん中に緩衝ゾーンを設置するほか、ワイルドライフブリッジ（動物専用の歩道橋）を作り、動物たちが人間の道路を横切ることなく渡れるようにするなど、周辺に生息している野生動物を守るための取組も行っている。また、交通事故に遭ってしまった動物を治療しリハビリをして、野生にかえす取組も行っている。

そのほか、学生への講演やテレビやラジオ、ショッピングモールでの啓蒙活動も行うなど、環境と気候への影響を最小限に抑えながら、動物へのケアに取り組むとともにお客様への体験を提供している。

4 主な質疑

冒頭の説明に対する質疑の時間が持てなかったため、園内視察をしながら各々が質疑を行った。

5 所感

調査テーマである生物多様性の保全と観光・教育の取組、サステナブル（持続可能性）な運営について、また、国内外の関係機関や他機関、地域との連携・協働など、具体的な取組を説明いただき、大変多くの学びを得た。

日ごろ、修学旅行生などの学生に対して行っているサステナブルに関する取組を説明いただいたが、SDGs17の項目のうち、④高い質の教育をみんなに、⑦エネルギーをみんな

シンガポール動物園 (Mandai WILDLIFE GROUP)

なにそしてクリーンに、⑪住み続けられるまちづくり、⑫つくる責任つかう責任、⑬気候変動に具体的な対策を、⑭海の豊かさを守ろう、⑮陸の豊かさを守ろう、⑯パートナーシップで目標を達成しようの8項目の具体的な取組における実践報告は大変興味深いものであった。

例えば、廃棄物ゼロの取組として、動物が食べ残した餌をミンチにして、アメリカミズアブの幼虫(ミミズ)を使って分解し、肥料として利用する取組は初めてお聞きする内容で、徹底した資源管理が行われていた。

園内の飲食店で人間が食べる食物についても環境に配慮したきめ細かな取組を行っており、社内での社員教育とともに、スタッフが力を合わせて目標を達成しようとしていることは重要であり、「人と動物がともに繁栄する世界を作っていく」というビジョンの達成への意気込みを随所で感じられる内容であった。

シンガポール動物園の重要な役割として、東南アジアを中心として周辺諸国の動物の保全と保護活動、絶滅危惧種や希少動物の保全と保護に力を入れておられた。アジア各地で、食用や漢方薬の材料として高い需要があるセンザンコウの密輸が増えており、インドネシア東部のロテ島の湿地だけに生息する亀の一種マッコードナガクビガメが絶滅の危機に直面している問題に対して、現地に職員を派遣し、問題の解決に向けて、国内外の関係機関と連携した取組が行われていた。まずは、近隣諸国の保全と保護活動等に取り組むとともに、世界に目を向けた活動にも広げる展望を示されていた。

また、未来を担う学生や子どもたちへの教育は重要である。グループでは、来園者、特に子どもたちに森林破壊を防ぐ認証をサポートする重要性を伝えることに重点を置かれており、好奇心旺盛で学習能力が高い幼少期から、動物とのふれあい体験を通じて、自然に対する共感、動物への愛と敬意を持つことができるように育てていく取組は重要である。加えて、動物園の来園者に対し、RSPO認証パーム油で作られた製品を選ぶことで、野生動物がどのように保護されるかを学び、持続可能なパーム油と保護の関係の認識を深める活動にも取り組まれている。世界の旅行者にも環境保全活動や野生動物保護活動を支援する取組を広げておられる。

開発などの人間活動による危機、人間が持ち込んだ様々な化学物質による危機、地球環境の変化による危機等、生物多様性がかつてない規模で失われようとしている中、今回の視察調査での学びを日本国内や地域活動に生かしていきたいと思う。



調査事項を聴取



園内を視察